



今日の朝刊の一面の下方に本の広告が出ていた。
 本の題は「癌に向き合って」「脊柱管狭窄症は改善した」
 「ここまで来た膝関節症の治療」「健全な睡眠を取りましょう」。
 これらの疾患は、高齢者の結構多くの方が悩まされ、そして
 中々よくなるしない疾患である。

私は買ったことがないので、本の内容は知らないが推定はできる。
 本の内容を推定してみることにした。

最初に、それらの疾患の患者の統計分布、つまり、年齢別、男女別、国別などで、
 棒グラフや円グラフで表し「日本人に多く、高齢と共に多くなり、特に女性に多い
 傾向がある。」「悩んでいる人はあなただけではない。」と文が続く。

その原因は、不明だがこんな人に多い傾向がある。あなたも、色々な医療機関で
 診察してもらい、治療を試したがよくならなくて辛い毎日のことだったでしょう。

一般的にはこんな治療法で、こんな治療薬です。

その進行度 I ~ IV の症状と治療法・治療薬の表が掲載。

数人の困った経験談が載っている。

ここからが、本題に入る。

重症度	酸素飽和度	呼吸状態	歩行のポイント
軽症	SpO ₂ > 98%	呼吸困難がなし SpO ₂ が98%以上あり 1日の歩行で20分まで も歩行困難を認めない	歩行が容易であるが、歩速に制限 が認められることがある。 1日の歩行で30分以内の歩行が 困難を認めない
中等症 (歩行不能なし)	95% < SpO ₂ < 98%	呼吸困難、頻呼吸	1日の歩行で30分以上歩行 困難を認め、歩速に制限が認め られることがある。
重症 (歩行不能あり)	SpO ₂ < 95%	頻呼吸が必須	歩行が困難を認め、歩速に制限が 認められることがある。
最重症		ICUに要 す 人工呼吸器が必須	人工呼吸器が必須となり、歩速に 制限が認められる。ICUに要する 患者は、歩行困難、ICUに要する 患者は、歩行困難が認められる。

怪しげな漢方もどきの民間薬や、体操もどきの治療法など。

少しはマシだが、インターネットからの引用で全国の有名な
 医療施設や専門医の一覧表が掲載。

「病は気から」の如く考え方で楽になり、それによって
 免疫力を高める何とかというカタカナの物質が上昇する。

そこで、「飽くまでも個人の感想であるが」と付記して、

「私は、こんなに良くなった。」の文章が続く。

そして「その結果、今まで辛くて可愛い孫と遊べなかつたが、それが出来るようになり、
 私のこれからの人生がバラ色になった。」などの飛躍した文章が続く。

作者は医療ジャーナリスト誰の太郎兵衛、監修は何々医学博士 (医学部卒でもなく、
 医師免許もなしだが、医学博士ではある)

本の値段は、お手頃な、1,200~2,300円である。

このエッセイを読まれた方、どうか買って読んで下さい。

私の推定がどれだけ合っているかをご検証下さい。 結構面白いかも。

